



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2026 2 月号
Vol.180
毎月1回発行(通巻180号)
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル5階 TEL.03-3553-2906 http://www.jmmpa.jp/

令和8年 新春特別講演会

「仏教から学ぶ
“人間力と
経営力”」

鈴木秀彰氏

仏教の本質と医療経営の 結びつきを理解しよう!

一般社団法人日本医療経営実践協会は、2月1日(土)より令和8年新春特別講演会の配信を行っている。講師を務めるのは僧侶・理学療法士の鈴木秀彰氏。本講演は2月28日(土)まで会員限定で配信中だ。

経営のノウハウではなく 本質を伝えるための場

今回で14回目を数える新春特別講演会(2020年までは「新春講演会」)。これまでに医師や病院経営者のほか、文化人や宗教家等、医療界の内外から講師を招き、経営の手法やノウハウではなく医療経営士の視野を広げ、人間力の向上に資するお話を伺ってきた。

コロナ禍を経て2021年からはオンライン開催となり、昨年は医療法人忠恕春日部在宅診療所ウエルネス理事長・院長の笹岡大史氏を講師に迎え、「人間力を生かした在宅医療」をテーマにご講演をいただいた。病気を治すこと、救命や延命という面ばかりに注力するのではなく、「家に

帰りたい」という想いを叶えることも医療者の使命感として必要なのではないかとこの笹岡氏の講演は多くの方に視聴、ご好評をいただいた。

今年の講師は僧侶であり理学療法士としての顔も持つ鈴木秀彰氏。「仏教から学ぶ『人間力と経営力』」と題し、医療経営士へ向け、力強いメッセージを送っていただいている。

判断を求められる場面で 本質を見極めるためには

家業である寺院に生まれた鈴木氏は理学療法士として延べ2万人以上の身体と心に向き合った後、一般企業でマネージャーとしての経験を積み、仏教・医療の世界へ回帰。それまでのさまざまな経験を活かし、経

営者や管理職、医療組織のリーダーと対話を重ねながら組織づくり、人材育成に携わっている。鈴木氏との対話により離職率の低下、採用コスト削減といった成果を出している企業も少なくないという。

2026年度診療報酬改定は26、27の2年度平均で+3.09%と大きく引き上げられた。物価高騰や人件費増で多くの医療機関が厳しい経営を強いられるなかで、「これで一息つける」といった声も聞こえるが、さらなる機能分化を進めていくことが求められる内容でもある。医療経営士として自院の方向性を見定め、地域で必要とされる医療機関として存続していくために何をすべきなのかを判断し、実践していくことが必要だろう。

鈴木氏は、現在は正解がなく、誰もが疲れている時代であり、だからこそ判断の質が問われていると話し、「何とかしよう」と力が

入ったり、正解を急ぎ過ぎると判断の質が落ちる」と言う。「身体が整うと心が整う。心が整えば判断が変わる。判断が変われば組織が変わる」と説く鈴木氏の言葉は、僧侶として、また理学療法士として人の身体と心を観てきたからこそその説得力を持って、聞く人の心に届くはずだ。

新春講演会は2月末まで会員限定で配信中。ぜひご視聴いただきたい。

仏教が扱うたった3つの視点

- ・無常(すべては変わる)
- ・執着(しがみつくと苦しい)
- ・観る(評価せず、事実を見る)

→ これはそのまま経営の基本



わかりやすい言葉で仏教の本質を説く鈴木氏

一般社団法人日本医療経営実践協会 主催

令和8年
新春特別
講演会



仏教から学ぶ “人間力と経営力”

講師 鈴木秀彰 先生 僧侶、理学療法士

2026 2月1日~2月28日

WEBオンデマンド配信

参加費 医療経営士(会員)……無料

医療経営士の皆様には視聴用アドレスを交付します

すぎき・ひであき●1978年、家業である寺院に生まれ、幼少期より仏教の教えとともに育つ。20代から理学療法士として医療現場に立ち、回復期療・アスリートリハビリ・終末期ケア・在宅医療・通所リハまで幅広い領域で、延べ2万人以上の身体と心に向き合ってきた。その後人材派遣会社のビジネス事業部にて、派遣スタッフ約100名のマネージャー、さらに行政委託事業の現場責任者として約100名の統括管理を経験。医療・福祉・ビジネス・行政の現場を横断して、「人が動く」「組織が機能する」条件とは何かを体感的に学ぶ。2022年、再び仏教・医療の世界へ回帰。「経営はお経を営むこと」という仏教的視座を手がかりに、人・組織・事業の循環を整える専門家として活動中。

（ 医療経営士に聞く2026年度診療報酬改定 ）

メデイカルスタッフの視点から見る 改定のポイントと医療経営士の役割

診療報酬本体の改定率が+3.09%となった2026年度診療報酬改定。

2月14日に答申が出され全容が見えてきたが、医療の現場にいるメデイカルスタッフはどう捉えているのだろうか。
看護師で医療経営士1級の寺島大悟氏、薬剤師で医療経営士2級の高橋照明氏のお二人に、現時点での私見を伺った。

薬剤師の視点

医師との連携強化によって ポリファーマシー対策を推進

IMSグループ横浜旭中央総合病院薬剤部係長
薬剤師/医療経営士2級 高橋 照明



病院に勤務する薬剤師として、今回の改定で大きいと考えているのは「病棟薬剤業務実施加算」の評価が見直されたことです。これまで、同加算は1(週1回/120点)と2(1日につき100点)に分かれていたのですが、今回新たに3段階となり、1では週1回で300点というこれまでの倍以上の点数がつけました。個人的にもここまで高い点数になるとは思っていなかったのが、驚いたというのが正直なところ。

重要なのは、この加算1を算定するための要件として、「薬剤総合評価調整業務及び退院時薬剤情報管理指導につき十分な実績を有していること」とされている点です。これはポリファーマシー対策として確実に成果を上げているかどうか問われているということであり、明確にアウトカム評価が入ってきていると言えます。この「十分な実績」という部分が実際にどの程度のハードルになるのかはまだわかりませんが、ポリファーマシー対策は必ずやっていかなければならない問題ですし、今回の加算の有無にかかわらず、病院の薬剤部門としてもしっかりと取り組んでいく必要があると考えています。

実際に処方するのは医師ですので、薬剤師だけで進めるには限界があります。今改定を機に、経営陣も巻き込み病院全体で取り組むという合意を形成して進めていく必要がありますし、これまで以上に医師との連携強化が求められます。そのためには連携が取れる薬剤師育成や、経営陣と折衝しながら設備投資を進め、いかに対人業務を充実させるかが薬剤部門のマネジメントとして重要でしょう。

そのためには病院薬剤師の待遇面も課題です。ベースアップ評価料はありますが、どうしても大手のドラッグストア等と比べると賃金の面では厳しいのが現状。一人ひとりのモチベーションを上げていくためにも、上層部へも声を届けていかなければと思っています。

看護師の視点

多職種連携の中で問われる 看護師の専門性と業務の質

香里ヶ丘有恵会病院看護部手術室室長
看護師/医療経営士1級 寺島 大悟



看護師として、やはり気になるのはベースアップ評価料のところ。特に今改定では夜勤の負担軽減・処遇改善についてしっかり評価していただいたと感じています。ただ夜勤が評価されることはよいのですが、夜勤ができる/できないによって処遇に差が生じてくるということについては、不公平が生じることはないよう、各職員に対してしっかりと説明が必要になると思います。

また、今回看護職員のほかセラピストや管理栄養士等の多職種が協働する場合に算定できる「看護・多職種協働加算」が新設されるなど、多職種で連携、協働していくという流れも加速している印象があります。これは看護師側からの視点で言えば、これまで自分たちでやらなければならない部分をそれぞれの専門職が担ってくれるということです。「餅は餅屋」ではないですが、専門分野については専門職の方にやっていただいたほうがクオリティも上がりますし、自分たちも看護師としての職務に専念できますので、より看護の質を高めていくことができます。もちろん、そのためには看護師としての専門性をしっかりと上げていくことが求められますから、それに応えていく責任があると感じています。

現時点ではまだ答申をしっかりと読み込めていない状況です。ボリュームが膨大ですし、一通り目を通してポイントを見極めようにも日々の業務のなかでなかなか時間が取れず、というのが正直なところ。改定に関する情報を整理し、各専門職に必要な情報を提供していただくと、それぞれの部署で理解も深まりますし、病院として何に取り組めばよいのかが明確になり、一体感を持って進められると思います。経営部門の医療経営士の方にはそういった役割を期待しています。

入院時食事療養費のアップでは追いつかない! 病院・介護施設の給食経営改善への羅針盤

病院・介護給食経営改善 ~どうする!? 未来~

■監修: 一般社団法人ヘルスケアフードサービスシステム協会 ■著者: 株式会社ミールシステム ほか

■定価: 3,300円(本体3,000円+税) ■体裁: B5判/264ページ

■発刊: 2024年9月 ■ISBN978-4-86729-344-7

【お問い合わせ先】株式会社日本医療企画 ☎03-3553-2885 <http://www.jmp.co.jp>

人手不足や高齢化、経費高騰で問題山積の給食業務の解決に向け、昨今の病院・介護給食を取り巻く環境・問題からクックチル、アッセンブリ、ハイブリッドなど新しいシステム、献立作成、システム選定、厨房設計の考え方と使用機器、事例集…と幅広い内容を掲載。給食運営の今後の方向性を考えるための情報が詰まった1冊です。



第5回多摩研究会主催 2026年度診療報酬改定セミナー 医療経営士として押さえておくべき 診療報酬改定の枠組みとポイントを理解



日本医療経営実践協会関東支部多摩研究会は2月13日(金)、八王子市学園都市センターにおいて2026年度診療報酬改定セミナー「地域医療構想・かかりつけ医機能報告を踏まえた診療報酬・調剤報酬改定のポイント」を開催した。会場・オンライン合わせて70名以上が参加した同セミナーの様をお伝えする。

2040年のゴールに向けた 大きな流れの理解が不可欠

2023年11月に東京都西部・多摩地域の医療経営士をつなぐネットワークの拠点づくりを目指して発足した、関東支部多摩研究会(世話人代表:中野雄介氏・医療法人社団永生会永生病院・みなみ野病院統括事務部長/医療経営士2級)。これまでもタイムリーな話題をテーマに研究会を開催してきたが、第5回となった今回は目前に迫った2026年度診療報酬改定をテーマに研究会を企画した。講師には医療制度・政策に関する情報収集・発信を行っているHCナレッジ合同会社代表社員の山口聡氏を迎え、会場とオンラインのハイブリッド形式での開催となった。

開催当日の朝、厚生労働省中央社会保険医療協議会(中医協)で答申が出されたばかりというタイミングもあり、会場・オンラインで70名以上が参加、診療報酬改定への関心の高さを伺わせた。

冒頭、医療制度政策の大きな流れについて「現在の医療政策には2040年というゴールがある」と話した山口氏。そのゴールに向けて毎年の方針を示している「骨太の方針」において具体的なKPIが設定されており、その目標達成への流れのなか

に診療報酬改定もあるという枠組みを説いた。そのうえで、糖尿病の診療継続率の目標値を例に挙げ、「現段階でまだ目標達成まで距離があるので、生活習慣病管理料にテコ入れが入ってくる」とし、改定を単独でみるのではなく、政策の大きな流れを把握しておくことの重要性を述べた。

さらに、新たに始まる地域医療構想やかかりつけ医機能報告制度にもふれながら「一つの医療機関で完結する医療ではなく、地域のなかでの横のつながりで疾病を管理していくという考え方が重要になってくる」と指摘し、改定の方向性を理解するための土台を示した。

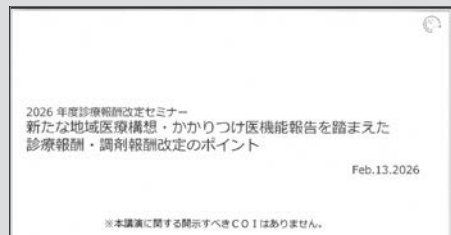
医療機関に求められる 機能の純化と連携の推進

山口氏は今改定のポイントとして、各医療機関は自院の機能の純化を通じて効率性を高め、連携を促進することと、地域で疾病管理をしていくことが求められているという方向性を踏まえ、「今回から地域別診療報酬が始まったと言えるのではないかと問題提起。調剤報酬において門前薬局等立地依存減算が新設されたことにふれながら、地域差について考慮された内容となっていることに注意を促した。

続いて改定の具体的な内容について、

全体を俯瞰しながら新設された加算や要件の見直し等について解説を加えていった山口氏。入院時食事療養費の引き上げをはじめ栄養に関する内容が多く含まれている点や、医療DXに関連する内容も大きく変わっていることなど、ポイントを的確に整理。DXについては働き方改革の視点からもふれ、点数のメリットだけでなく、若い職員の採用面から考えても環境を整備しておくことが必要になるのではないかと私見を述べた。

その他、入院、外来・在宅、精神、調剤と、それぞれの領域について解説を加えた山口氏。終了後のアンケートでも参加者の満足度は非常に高くなっており、企画のタイムリーさと当日の答申内容も踏まえて講演いただいた山口氏の熱意が高い評価を受けた研究会となった。



セミナー当日に出た答申内容も踏まえた山口氏の詳細な解説は高い評価を得た

最新医療経営 PHASE3

最新情報を踏まえ新たな病院像を描く「経営の時代」の羅針盤
3月号 好評発売中

特集

環境対策、コスト削減、SDGs...

2040年を見据えた持続可能な病院経営

2040年に向けて、地域医療を取り巻く環境は激変する。働き手を中心とした人口減少が急激に進む一方で、高齢者は増加する。誰もが今まで経験したことがない社会の到来が、眼前に迫ってきている。新年のあいさつに立った病院団体の代表者からは、この危機についての発言が目立った。2040年を見据えた持続可能な病院経営を実現するためには、地域のインフラとして生き残る戦略・戦術が不可欠となる。

詳細・ご購入は
こちら



事務局掲示板

会報誌『理論と実践』投稿募集中 自分の声を会員に届けよう

当協会が発行している会報誌『理論と実践』では、会員の皆さまからの投稿を募集しています。日頃の職務における疑問や悩み、業務改善へ向けたアイデア、病院経営や医療政策・制度に関する論文や問題提起等、内容は自由です。採用原稿については薄謝を進呈いたします。お気軽にご投稿ください。

【投稿に関するお問い合わせ先】
E-mail : info@jmmpa.jp



登録内容を変更する際のお手続きは 「マイページ」からの申請が便利です

住所・勤務先・氏名など、申請時の内容から変更が生じた場合は、登録情報の変更手続きが必要となります。協会ホームページより「登録変更申請書」をダウンロードのうえ、必要事項を記載してメールまたは郵送にてご送付ください。

「マイページ」をお持ちの方はページ内の内容変更から手続きが可能です。「マイページ」を初めて使用する場合にはアカウントとパスワードのご登録が必要となります。ご不明な点は、本協会事務局までお問い合わせください。

【登録内容変更のご案内】
<https://www.jmmpa.jp/support/cat/>

BOOKS

地域医療・介護の新たなカタチをデータから読み解く 『ヘルスケア業界データブック 2025』発刊

2040年のヘルスケア業界を見据え 現在地からの最適ルートを探る

毎年好評を博している『ヘルスケア業界データブック』の2025年版が3月上旬に発刊される。ヘルスケア業界を取り巻く不確実性は増幅し、医療・介護経営はかつてない危機的状況に直面している今、本書では、公的機関や医療機関が公表する各種データを体系的に整理・分析し、病院・介護事業者が変革期を生き抜くために必要な持続可能な経営戦略の方向性を提示する内容となっている。

構成は「分析編」と「データ編」の2部構成。1部「分析編」では現在の制度や施策の現状を中心にヘルスケア業界を概観し、2部「データ編」では多様なデータから医療・介護経営の現状と展望を示している。

本協会正会員の皆さまには、会員特典として1冊贈呈される。3月上旬を目途に協会より発送予定となっているので、今後の医療経営の方向性を見定める羅針盤としてお手元に置き、ご活用いただきたい。



- 監修・編集：
株式会社日本政策投資銀行/
株式会社日本経済研究所
- 定価：3,520円(税込)
- 体裁：A4判/並製
- 発行：日本医療企画

日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

| 開催日 | 開催支部 | テーマ | 講師 |
|----------------------|------|--|---|
| 2月19日(木)~ 3月5日(木) | 関西 | 診療報酬改定対策セミナー2026(オンデマンド) | 古株靖久 氏(合同会社デロイトトーマツ/医療経営士2級) 田中大地 氏(フリー株式会社キアアカウント戦略推進事業部 病院チームカスタマーサクセス長) |
| 2月26日(木) | 九州 | 医療経営士南九州支局研修会 「2026年度診療報酬改定の要点解説ならびに病院での医療DX」 | 長 英一郎 氏(東日本税理士法人代表社員所長/医療経営士1級、医療経営指導士) |
| 3月6日(金) | 北海道 | 14th道北医療経営ネットワークセミナー 人材難時代の医療経営～人的資本経営と外国人材活用の実践～ | 中尾高久 氏(医療法人健康会くにもと病院事務長) 飯澤智子 氏(医療法人健康会くにもと病院病棟課長) 藤原健祐 氏(小樽商科大学ビジネススクール) |
| 3月7日(土) | 関東 | 第5回山梨研究会 「医療政策から読み解く病院経営の未来」 | 吉村健佑 氏(千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター特任教授) 金城悠貴 氏(済生会神奈川県病院経営戦略課長/医療経営士2級) 新谷直樹 氏(施設基準管理士関東信越部会会長、国立成育医療研究センター) |
| 3月19日(木) | 関西 | “イチ”からわかる 病院経営オンライン塾 第6回「お悩み相談コーナー」 | 古株靖久 氏(合同会社デロイトトーマツ/医療経営士2級) |
| 3月20日(金・祝) | 関東 | 第61回神奈川研究会 「病院をつくらう」ボードゲーム大会 | ※地域住民の声と潜在患者数を把握し、地域に求められる病院を目指す 経営シミュレーションボードゲームを参加者同士でプレイ |

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。

好評配信中 各10分のショート動画でスキマ時間を有効活用! WEB講座

日本ヘルスケア
経営学院
公開講座

医療現場のコミュニケーション& ハラスメント対応スキルアップ研修

講座概要



●講師
石井富美氏
(多摩大学医療・
介護ソリューション
研究所副所長)

講義内容

- ①ブランディングの鏡
- ②医療現場のトラブル対応
- ③医療現場のハラスメントの仕組みと対処法
- ④コミュニケーションスタイルを知ろう
- ⑤コミュニケーションスキルアップ

- ▶受講料：4,400円(税込)
- ▶講義時間：各10分程度(全5本)
- ▶受講期間：20日間

お申込みはコチラ➡



【お問い合わせ先】日本ヘルスケア経営学院 事務局(日本医療企画内) ☎03-3553-2862 <https://hcmi-s.net/>